

道路事業

一般国道 293 号 馬頭バイパス

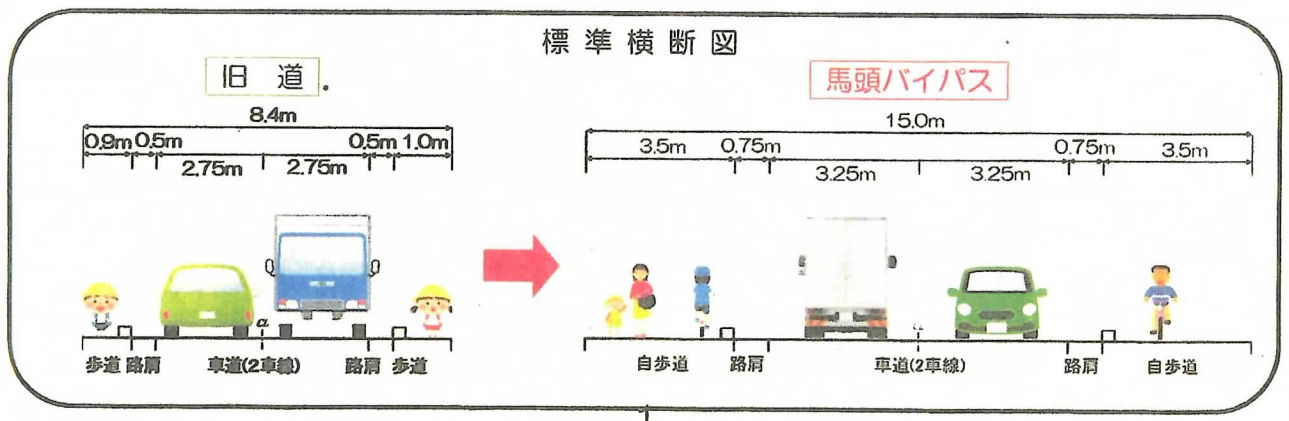
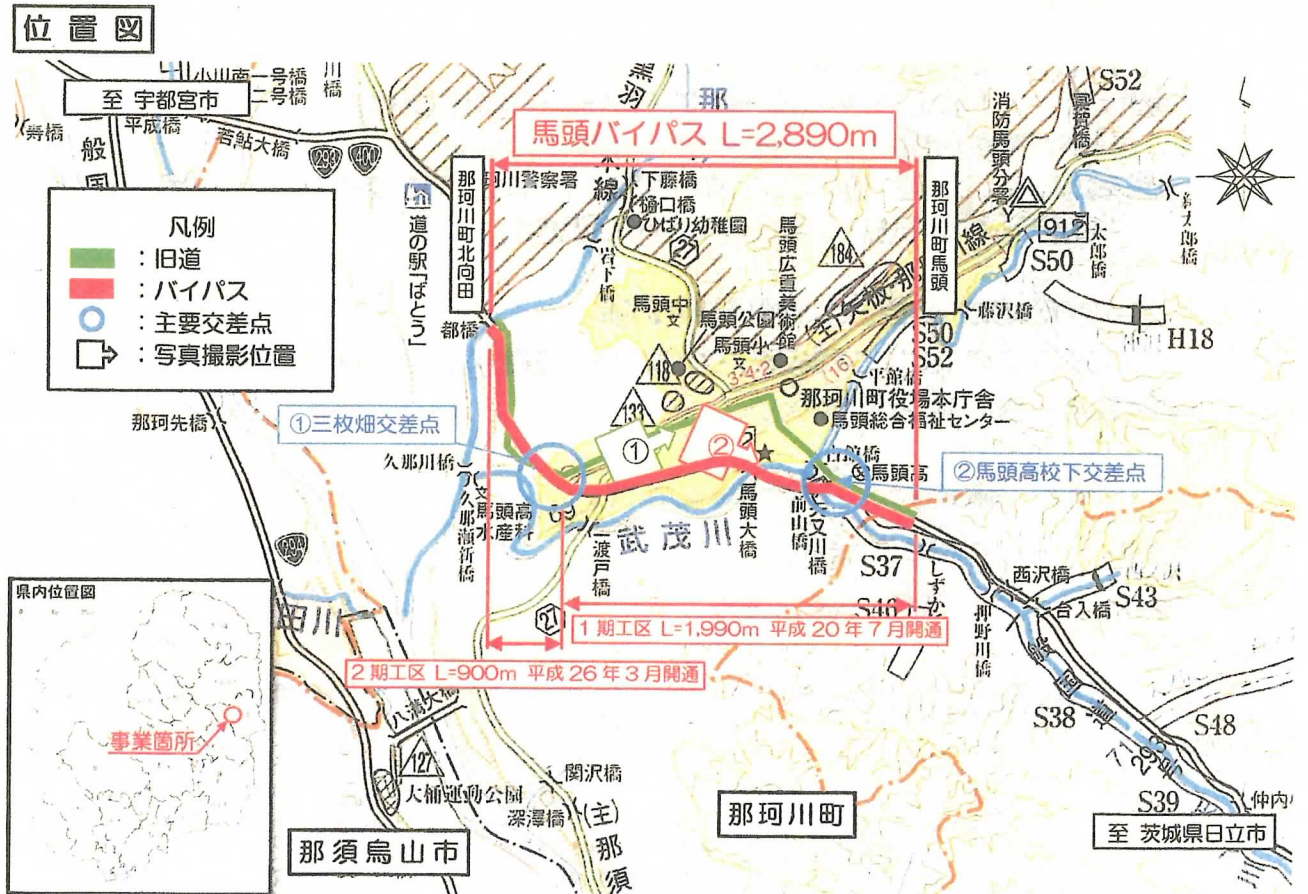
(平成 26 年 3 月 完成)

1. 事業概要

一般国道 293 号は、茨城県日立市を起点とし、那珂川町から宇都宮市を經由して足利市に至る、本県の中央部を横断する東西交通の根幹をなす幹線道路である。また、八溝地域の観光や産業活動を支えるとともに、地域住民の日常生活に欠くことのできない路線である。

しかしながら、本路線の那珂川町馬頭地内の旧道は道幅が狭く、屈曲著しい交通の隘路となっていることや、付近に学校が立地しているにもかかわらず、幅員の狭い歩道があるのみで交通安全上、非常に危険な状態であった。

このため、栃木県では広域的な交流支援や地域間連携の強化及び沿線地域の社会経済活動・観光産業の支援、旧馬頭市街地の円滑な交通と自転車歩行者の安全確保を目的に、平成 11 年度からバイパス整備に着手した。全体を 2 工区に分けて事業を進め、平成 20 年 7 月に 1 期工区の供用を開始し、平成 26 年 3 月に全線供用を開始した。



- ◆ 事業名：快適な道づくり事業
- ◆ 事業主体：栃木県
- ◆ 事業箇所：一般国道 293 号 馬頭バイパス（那珂川町馬頭～那珂川町北向田）
- ◆ 全体延長：2,890m
- ◆ 主要構造物：馬頭大橋 L=65.0m（一級河川矢又川を跨ぐ）
矢又川橋 L=21.1m（一級河川矢又川を跨ぐ）
- ◆ 幅員：W=15.0m（車道 6.5m、自歩道 3.5m両側）
- ◆ 総事業費：約 45 億円
- ◆ 事業期間：平成 11 年度～平成 25 年度

2. 事業の目的・必要性

- ① 広域的な交流支援や地域間連携の強化
- ② 沿線地域の社会経済活動・観光産業の支援
- ③ 旧馬頭市街地の円滑な交通と自転車歩行者の安全確保

3. 事業の整備効果等

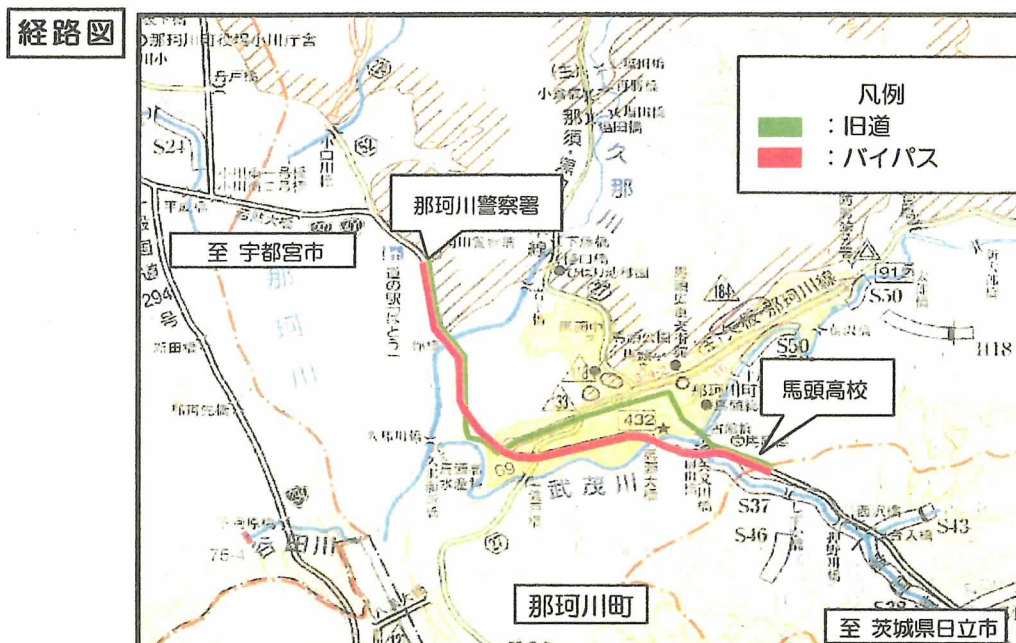
<費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化>

- 事業費：着手前 約 47.5 億円 完成時 約 45.0 億円
（事業費減少の理由：用地補償費の精査による）
- 事業期間：着手前 平成 11 年度～平成 24 年度 完成時 平成 11 年度～平成 25 年度
（事業期間延伸理由：用地取得交渉の長期化）

① 広域的な交流支援や地域間連携の強化

バイパス整備によって、馬頭高校から那珂川警察署までの移動時間が約 4 分間短縮され、地域間の連携強化を図ることができた。

経路（馬頭高校～那珂川警察署 区間）		経路延長	所要時間
整備前	「旧道」を利用	3.9 Km	約 9 分
整備後	「馬頭バイパス」を利用	3.6 Km	約 5 分



② 沿線地域の社会経済活動・観光産業の支援

当事業区間においては、大型店舗等が進出するなど、沿線の土地利用状況に活性化がみられる。交通量調査の結果からも、バイパスにおける交通量は増加しており、沿線地域の社会経済活動が活発になったと考えられる。

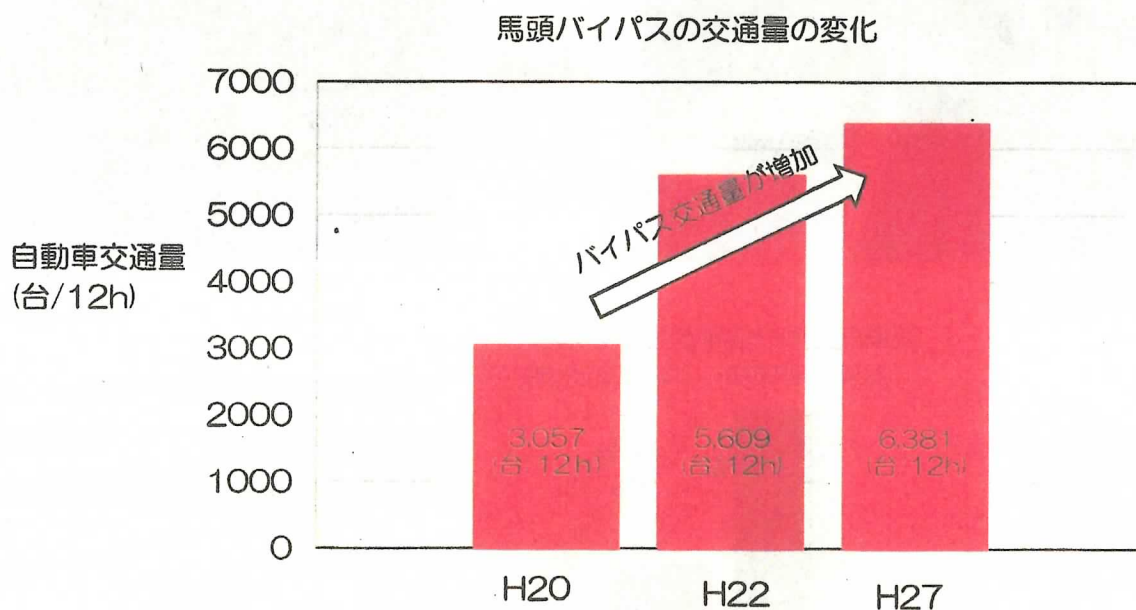
また、アンケートの結果*において業務利用の約7割の方が輸送効率の向上を実感しており、本事業は沿線地域の社会経済活動に対して、今後もさらに寄与していくものと思われる。

*P5.アンケート結果「仕事で利用される場合の輸送、移動などの効率はよくなりましたか」

【馬頭バイパス沿線の土地利用状況】

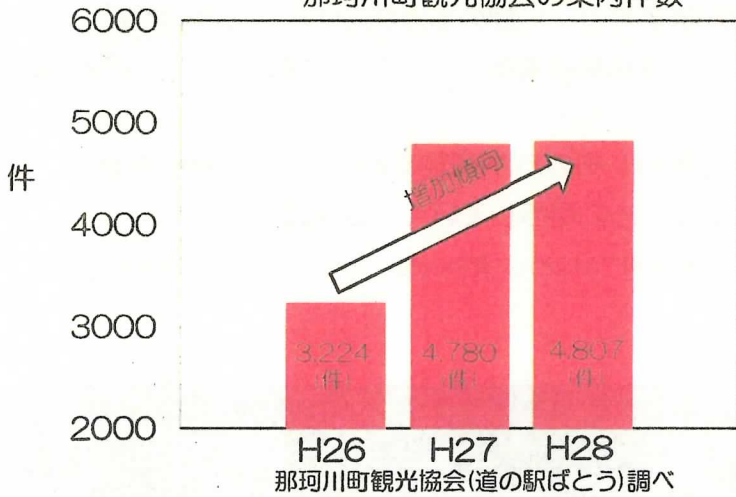


【交通量の推移状況】



【観光産業への支援】

那珂川町観光協会の案内件数



那珂川町観光協会の案内件数は、馬頭バイパス開通後、増加傾向にある。

自然豊かな当地区の魅力とアクセス性の向上が浸透しつつあると考えられ、本事業は観光産業への支援に対して、今後もさらに寄与していくものと思われる。

③ 旧馬頭市街地の円滑な交通と自転車歩行者の安全確保

【馬頭バイパス開通による交通流の変化（バイパスへの転換）】

バイパスと旧道の分岐部で行った交通量調査では、約55%と半数以上の車両が馬頭バイパスを進路に選択しており、課題であった旧道(市街部)からの交通の転換を図ることができた。



烏山土木事務所交通量調査結果(H20)より(交通量は台/12h)

・整備前(旧道)

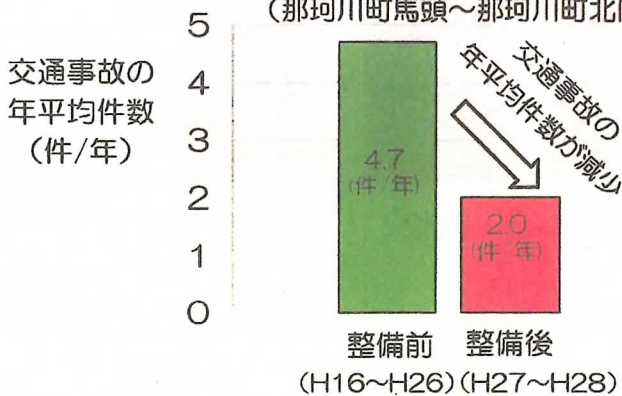


・整備後(馬頭バイパス)



【安全性の向上】

整備前後の交通事故件数の比較
(那珂川町馬頭～那珂川町北向田)



旧馬頭市街部の隘路を通行していた交通環境が改善されたことで、市街部の交通事故件数も減少し、安全が確保された。

4. 事業による環境の変化

特になし

5. 事業を巡る社会経済情勢等の変化

特になし

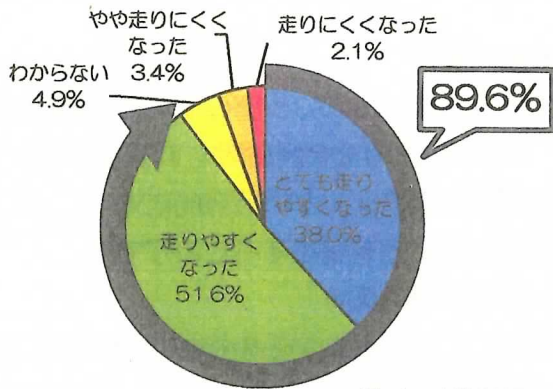
6. 地元の声・アンケート結果

一般国道 293 号「馬頭バイパス」の整備効果を検証するため、地域住民や学校等へアンケート調査を実施した。

(回答数/配布数：393/700 件 回答率 56% ※有効回答数は設問により異なる。)

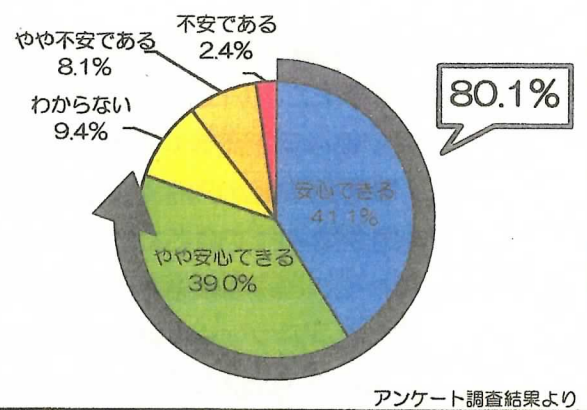
① 整備後の道路について

【馬頭バイパスの走りやすさ】



約 90%の方が、走りやすくなったと感じている。

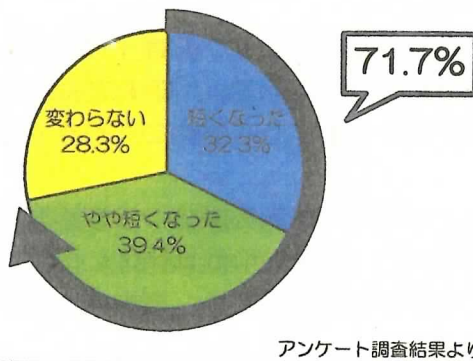
【馬頭バイパス利用時の安心感】



約 80%の方が安心と感じている。

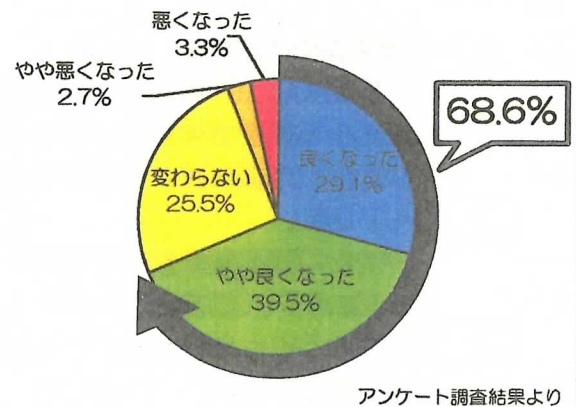
② 日常生活への影響について

【移動時間は変化しましたか】



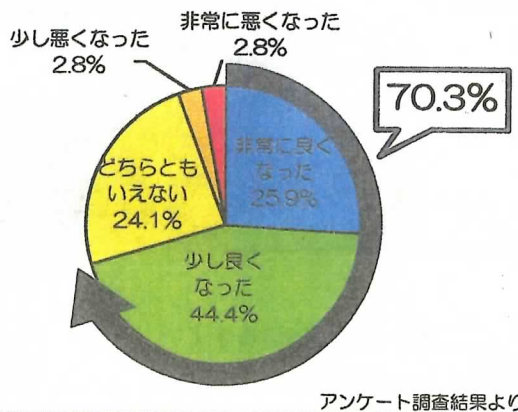
約 72%の方が、短縮したと感じている。

【景観やまちなみに変化はありましたか】



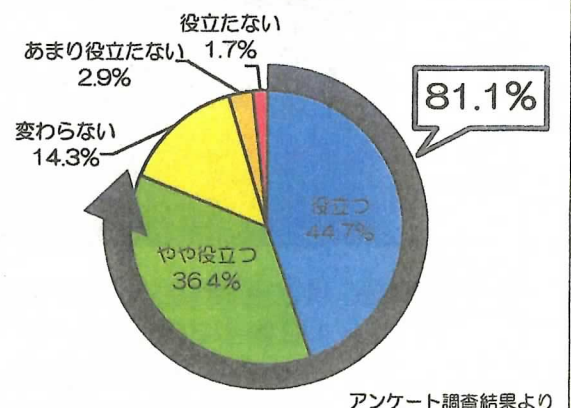
約 69%の方が、良くなったと感じている。

【仕事で利用される場合の輸送、移動などの効率は良くなりましたか】



約 70%の方が、良くなったと感じている。

【災害時などの避難・救助活動、救急活動に役立つかと思いますか】



約 81%の方が、役に立つと感じている。

③ 自由意見(意見の多かった内容等)

- ◇ 交通がスムーズになり、時間が短縮された。
- ◇ コンビニや大型店舗が開店し、生活が便利になった。
- ◇ 観光シーズンの渋滞がなくなった。
- ◇ 歩道が出来てジョギング・ウォーキングなどがしやすくなった。
- ◇ 騒音はあるが、走りやすく通勤も楽になった。
- ◆ 道路が広く走りやすくなったため、スピードを出しすぎる車が増えた。
- ◆ 交通量が増え、国道への出入りがしづらくなった。

7. 今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性

本事業については、交通状況調査やアンケート調査により、整備にあたり目指していた「広域的な交流支援や地域間連携の強化」「沿線地域の社会経済活動・観光産業の支援」「旧馬頭市街地の円滑な交通と自転車歩行者の安全確保」という目的に対して、十分な効果が得られていることや利用者の満足度が高いことを確認することができた。

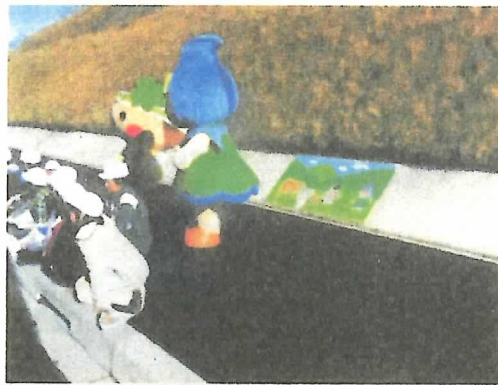
よって、再度事後評価を行う必要性はないものとする。

また、アンケート調査の結果、「走行性の向上による速度超過の車両が増えた」「交通量が増え、国道への出入りがしづらくなった」の意見があったことから、今後、利用状況をみながら、さらなる改善の必要性が生じた場合には、地元住民や交通管理者等の関係機関と協議し対応していく。

8. 同種事業への反映

本事業では、新設橋梁の名称を地域住民に公募したり、プレ開通イベントにて地域の小学生に道路へお絵かき体験してもらったものを路面に残したほか、開通記念絵画を歩道脇に設置するなど、完成後も長く愛着や親しみを持ってもらえるような道路づくりを心がけ、事業に取り組んできた。

今後も同種事業を実施する際には、地元との交流や連携を深めつつ道路整備への理解を得ながら進めていくほか、アンケートの結果を参考に、安全性や地域特性に配慮した道路計画の策定に努めるとともに、限られた予算の中で事業を効率的に進め、事業効果を早期発現できるように努めていく。



栃木県 県土整備部 道路整備課

TEL : 028-623-2410 FAX : 028-623-2417

HP : <http://www.pref.tochigi.lg.jp/h04/index.html>

E-mail : doro-seibi@pref.tochigi.lg.jp

VERY
GOOD
LOCAL
とちぎ